

通信・インターネット

1. 評価対象企業（12社）

【通信】（5社）

インターネットイニシアティブ、日本電信電話、KDDI、ソフトバンク、ソフトバンクグループ

【インターネット】（7社）

カカコム、ディー・エヌ・エー、グリー、GMO ペイメントゲートウェイ、LINE ヤフー（注）、サイバーエージェント、楽天グループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）Zホールディングスが商号を変更した（2023年10月）。

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	28
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	6
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	31
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	5
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは41名（所属先24社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、項目内容・配点の一部を見直すなどの変更があり、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は68.9点（昨年度71.6点）、総合評価点の標準偏差は10.4点（昨年度7.6点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、通信（5社）は76.9点（昨年度76.7点）、インターネット（7社）は63.1点（昨年度67.4点）となった。インターネットが昨年度に比べ下げたため、通信との差がさらに拡大した。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が72%（昨年度74%）、説明会等が70%（昨年度71%）、フェア・ディスクロージャーが85%（昨年度83%）、ESG関連が65%（昨年度70%）、自主的な情報開示が52%（昨年度同率）となった。昨年度に比べ、ESG関連が下がったほか、自主的な情報開示が依然として低水準にとどまっている。

- ④ 評価項目について見ると、平均得点率が80%以上の高水準となったものは、次の3項目（経営陣のIR姿勢等の中の1項目（a）およびフェア・ディスクロージャーの2項目（b）（c））であった。

- (a) 「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか〔4回以上出席：満点、2回以下：0点〕」（平均得点率84%〔昨年度100%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：0%2社・100%10社）
- (b) 「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率93%〔昨年度89%〕）（得点率：85%2社・90%3社・95%5社・100%2社）
- (c) 「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか」（平均得点率81%〔昨年度同率〕）（得点率：60%台2社・70%台2社・80%台6社・90%台2社）

- ⑤ 一方、次の項目（自主的情報開示）は、昨年度に続き平均得点率が50%台にとどまり、連続して低水準であったことから、今後の改善を強く求めたい。

- ・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率52%〔昨年度同率〕）（得点率：30%台3社・40%台4社・60%台3社・70%台2社）

- ⑥ ESG関連の4項目は、次のとおりとなった。昨年度に比べ、4項目共に平均得点率が下がり、いずれも60%台にとどまった。上位評価の企業と下位との得点率の差が大きくなっており、下位の企業においては今後の改善を求めたい。

- (a) 「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」（平均得点率69%〔昨年度70%〕）（得点率：50%台2社・60%台4社・70%台3社・80%台3社）
- (b) 「資本政策や株主還元策（配当・自社株買い・自社株消却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか」（平均得点率62%〔昨年度70%〕）（得点率：40%台2社・50%台3社・60%台3社・70%台4社）
- (c) 「目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」（平均得点率67%〔昨年度69%〕）（得点率：40%台3社・50%台2社・60%台2社・80%台3社・90%台2社）
- (d) 「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する情報を開示し、方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか」（平均得点率64%〔昨年度71%〕）（得点率：40%台2社・50%台2社・60%台4社・70%台3社・80%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 日本電信電話（ディスクロージャー優良企業〔3回連続7回目〕、

総合評価点80.9点〔昨年度比-1.5点〕

- ① 同社は、ESG関連（得点率〈以下省略〉81%）、自主的情報開示（78%）が第1位、フェア・ディスクロージャーが第2位（92%）、経営陣のIR姿勢等（82%）、説明会等（78%）が第4位となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、昨年度と同水準の得点率を確保した。個別の評価項目で見ると、「経営陣のIR姿勢」の2項目が最も高い評価となった。これらに関連して、経営陣との直接的な対話機会が多く、特に、社長、副社長との対話は有意義であるとの声が寄せられた。また、「IR部門の機能」が第4位となり、85%以上の得点率であった。「IRの基本スタンス」も同得点第4位となった。これらに関連して、取材の際に、NTTドコモに関する説明が得られる点を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」（同得点第3位）が評価された。これに関連して、説明会の質疑応答を含めスクリプトを開示していることを評価する声があった。なお、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（3項目）の得点率について

ては、いずれも昨年度と同程度であった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が最も高い評価（満点）となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」（同得点第 3 位）もトップと僅差であった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する取組み」が昨年度に続き最も高い評価となり、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」も同得点第 1 位となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」が同得点第 2 位に、「目標とする経営指標等の開示」が第 3 位となった。なお、中期経営戦略において設備投資の内訳や多様な利益目標等があればさらに理解が進むとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は最も高い評価となった。充実していたイベントとして、IR DAY を挙げる声が多く寄せられたほか、R&D フォーラムを評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 ソフトバンク（総合評価点 80.0 点〔昨年度比+3.2 点〕、昨年度第 4 位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第 1 位（93%）、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）、**説明会等**（78%）、**ESG 関連**（79%）が第 3 位、**自主的情報開示**が第 4 位（64%）となった。昨年度に比べ、4 分野において得点率が上がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が最も高い評価（満点）となり、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」（同得点第 2 位）および「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」（同得点第 3 位）も評価された。これらに関連して、経営トップとの定期的な対話は有益であるとの声が寄せられた。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」（同得点第 2 位）も昨年度の得点率を上回った。
- ③ **説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が同得点第 1 位となった。これに関連して、キャッシュフローを事業目標としており、その見通しをわかりやすく説明しているとの声があった。また、「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること。また、情報開示の後退がないこと」が同得点第 2 位となり、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」も同得点第 3 位と評価された。これらに関連して、説明会の質疑応答を含めスクリプトを開示していることを評価する声があった。なお、データシートの開示を高く評価しつつ、セグメントの理解が難しいとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の 2 項目は共に同得点第 1 位となり、その結果、この分野において第 1 位（昨年度同得点第 2 位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていること」が第 2 位となり、90%以上の得点率であった。また、「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」（第 3 位）も評価された。これに関連して、社外取締役とのスモールミーティングの開催およびその議事録の開示を評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 4 位となった。

第 3 位 インターネットイニシアティブ（総合評価点 79.3 点〔昨年度比-0.1 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（86%）、**説明会等**（84%）が第 1 位、**自主的情報開示**が第 3 位（68%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 3 位（90%）、**ESG 関連**が第 5 位（69%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、4 項目のうち 3 項目が最も高い評価となり、「会社主催の経営幹部とのミー

ティングにおいて、有益なディスカッションができること」も同得点第3位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営陣とのミーティングは大変有益であるとの声が寄せられた。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（3項目）のうちの2項目が最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、CFO とのミーティングが有益であるとの声のほか、決算説明会資料等を通じた情報発信の取組みは改善しているとの声が寄せられた。また、中期経営計画の報告が半年の頻度になったことを評価する声も寄せられた。なお、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」は平均得点率と同程度であり、今後の開示には改善の余地があるとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の2項目は共に85%以上の得点率となり、トップと僅差であった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が昨年度に比べ得点率を改善し、第4位（昨年度同得点第5位）となった。また、「目標とする経営指標等の開示」（第5位）が80%以上の得点率となった。なお、「資本政策、株主還元策の開示」は昨年度に比べ得点率が下がった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」（第3位）は昨年度に比べ得点率が改善した。

以 上

2023年度 ディスクローチャー評価比較総括表 (通信・インターネット)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	9432 日本電信電話	80.9	24.5	4	21.8	4	5.5	2	25.2	1	3.9	1	1
2	9434 ソフトバンク	80.0	24.7	3	21.9	3	5.6	1	24.6	3	3.2	4	4
3	3774 インターネットイニシアティブ	79.3	25.7	1	23.4	1	5.4	3	21.4	5	3.4	3	2
4	9433 KDDI	77.4	23.3	5	20.2	6	5.4	3	24.7	2	3.8	2	3
5	3769 GMOペイメントゲートウェイ	77.0	24.8	2	22.1	2	5.4	3	22.6	4	2.1	8	5
6	2371 カカコム	70.8	23.1	6	21.0	5	5.3	6	19.9	6	1.5	12	6
7	9984 ソフトバンクグループ	67.0	19.9	8	19.6	7	5.3	6	19.8	7	2.4	6	9
8	4755 楽天グループ	65.7	21.1	7	19.2	8	5.1	8	17.3	10	3.0	5	8
9	4689 LINEヤフー	64.4	19.9	8	19.0	9	4.8	10	18.5	8	2.2	7	7
10	4751 サイバーエージェント	60.0	19.1	10	16.3	10	4.9	9	17.7	9	2.0	9	10
11	2432 デイ・エヌ・エー	52.1	17.3	11	14.2	12	4.2	12	14.6	11	1.8	10	11
12	3632 グリー	52.0	15.5	12	16.0	11	4.4	11	14.3	12	1.8	10	10
	評価対象企業平均点	68.90	21.59		19.56		5.11		20.05		2.59		

2023年度評価項目および配点（通信・インターネット）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか。 【4回以上：2点 3回：1点 2回以下：0点】	2
②会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（28点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しは、十分に開示されていますか。また、情報開示の後退はありませんか。	10
②キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	3
③会計基準の変更・セグメント見直し・KPIの定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（6点）	配点
①経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	4
4. ESGに関連する情報の開示（31点）	配点
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	6
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策や株主還元策（配当・自社株買い・自社株売却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか。	10
(3)目標とする経営指標等の開示	
・目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4
(4)E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する取組み	
・E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する情報を開示し、方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか。	11
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していたサービスないし施設・設備名をコメント欄に記入して下さい】	5

通信・インターネット専門部会委員

部会長	増野 大作	野村証券
部会長代理	大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント
	安藤 義夫	大和証券
	醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント
	寺島 正	大和アセットマネジメント
	森 はるか	JPモルガン証券

評価実施アナリスト（41名）

浅川 直騎	朝日ライフアセットマネジメント	鈴木 崇生	大和証券
荒木 正人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	田中 英太郎	SOMPOアセットマネジメント
安藤 義夫	大和証券	田中 秀明	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
石井 孝一郎	三菱UFJ信託銀行	千葉 馨	JPモルガン証券
伊藤 彰洋	三井住友DSアセットマネジメント	鶴尾 充伸	シイクグループ証券
岩渕 啓介	岡三証券	寺島 正	大和アセットマネジメント
大浦 裕太	第一生命保険	得永 一樹	大和証券
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	納 博司	いちよし経済研究所
奥村 裕介	岡三証券	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
小野 まな実	三菱UFJ信託銀行	平岡 直樹	野村証券
巖 智用	野村証券	福井 悠香	第一生命保険
菊池 悟	SMBC日興証券	堀 雄介	みずほ証券
岸本 晃知	みずほ証券	前田 栄二	SMBC日興証券
邱 泰来	シイクグループ証券	増野 大作	野村証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
栗原 智也	SBI証券	森 はるか	JPモルガン証券
小林 亮	みずほ証券	森行 眞司	SBI証券
佐藤 啓吾	ニッセイアセットマネジメント	安田 秀樹	東洋証券
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友DSアセットマネジメント
山藤 秀明	QUICK		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。